

- 会議名 令和4年度 第1回丹波市社会教育委員の会議
- 日時 令和4年5月25日（水）午前9時30分～11時50分
- 場所 氷上住民センター 大会議室
- 出席者 社会教育委員：12名
関係部署：11名

●内 容

- 1 開会（社会教育・文化財課長）
- 2 教育長あいさつ（教育長）
- 3 委嘱書の交付（教育長）
- 4 委員自己紹介・職員自己紹介
- 5 役員選出
・協議の結果、役員が選出された。
- 6 報告事項
(1) 丹波市の令和3年度社会教育事業報告・令和4年度社会教育事業計画について

【質問・意見】

委員：地域で子どもたちも参加できる事業として、農林水産省が推奨しているため池保全活動である「かいぼり」（ため池の泥上げ）をした。地域の子もたちはもとより、大路未来会議の「あそびの学校」と連携して事業を行った。丹波市産業経済部とも情報交流しながら、大人も子どもも一緒になっていきいきと楽しむ良い体験となった。地域をあげて活動することで、地域活動も子ども会行事も幅が広がる。

委員：「大人だけが参加する事業」で終わらせないことは、大人の学びと子どもの学びが広がる良い取組だと思う。

委員：市民活動課の事業「社会教育関係団体活動支援」の地元の高校生や地域の大人を講師とした親子参加型の事業及び、青少年リーダー育成講座の開講等の事業内容について具体的な話を聞かせて欲しい。

市民活動課：今年度からの初めての試みであり、青少年育成として次世代のリーダーを育成するための高校生や大学生に向けた講座を開講したいと考えている。アウトドア活動に関することや、地域の伝統的な活動についての青少年育成講座を考えていく予定である。

委員：学校からの「決め役」で子どもたちが参加要請されるものではなく、自ら学びたい形を選んで、楽しみながら自分たちが地域を担って行くのだという思いで参加してほしい。「決め役」では、リーダーは育っていかないと思う。子どもたちの中には良いリーダーになれる子

がいる。大人側から「いい声掛け」の仕方をして子どもたちが持っている「地域を良くしたい」という気持ちを育てていけたら良いと思う。

教育長：地元の小学校の学校運営協議会の委員をしていた時、コミュニティ・スクール活動の会議に、近所の中高生に参加を促すと「ぜひ、参加させてほしい。」という生徒が2～3人いた。地域に感心があり、「地域のために何かやりたい。」という生徒もいる。声掛けの大切さを感じた。

委員：ラジオ講座やオンライン研修など、コロナ禍においても前向きに積極的な良い試みが各課で計画されていて素晴らしい。ただ、サークルで活動をする時に、住民センターの研修室や会議室から Zoom 等で自宅で学びたい人にも対応したいが、各部屋の Wi-Fi 環境の整備ができていないため、参加が困難な状況である。今後も、来場が困難な方や、既往症があり外出を控えておられる方など、誰にでも、どんな形ででも学びを提供できるような形で整備をしていただきたい。

委員：地域の広場の遊具に安全基準を満たしていないものが見られる。地域での子育て支援として、異年齢で「群れて遊ぶ」ための安全な環境の整備等も大切に考えていただけたらと思う。

まちづくり部長：Wi-Fi の整備等学びを支える環境について検討を進める。また、地域の広場の遊具について、本年度から自治会が遊具の修繕を行う場合に補助を行う予定である。

委員：10ページの TAMBA 地域づくり大学は令和4年度も開講されるのか。
市民活動課（生涯学習係長）：令和4年度は TAMBA 地域づくり大学としての開講はないので資料の訂正をさせていただきたい。同様の事業が、10ページの「市民活動団体や地域づくり団体支援」の中で、市民活動支援センターの事業として開催される予定である。

委員：前年度、丹波地区社会教育委員協議会の研修を水分れフィールドミュージアムで開催していただいたことで、リニューアルして良い施設になったことを多くの方に伝えることができ良かった。植野記念美術館で行われた「宮西達也展」も大変良かった。丹波市には良い施設がたくさんあるので、これからも実際に自分が施設を訪れて、多くの方々に広報して情報発信に努めたい。社会教育委員として積極的な情報発信でまちの活性化に協力していきたい。

委員：市民が自主的にされているボランティア活動がたくさんある。市と市民活動団体との間の風通しが良くなり、距離が縮まったことでお互い協力して多くの企画ができるようになってきたことは大きな成果だと思う。ボランティアの活動による施設運営上のコスト削減だけで

はなく、活動している人たちが「楽しい」ということが重要で、それが基本で活動している。丹波地域だからこそたくさん残る遺物をできるだけ分かり易く、楽しく市民の方々に伝える努力をしながら、市とも連携していきたい。

委員：県の社会教育委員協議会でもよく出る話に、「様々な団体とつながったり、つなげたり」という事がある。社会教育委員の役割は、「人と人」「人と団体」「人とモノ」とをつなげたり、つながるきっかけを作っていくことだと思う。市内にはたくさんの団体があり様々な活動をされている。団体の中身をよく見て一緒に活動することで、さらに活動内容が広がる。

教育長：5月の連休の間それぞれの施設がLINEやホームページで施設情報発信をした成果が出ていた。恐竜課のちーたんの館も、朝から開館を待つ行列ができていた。水分子フィールドミュージアムも大変賑わっていた。市や教育委員会が、様々な情報をキャッチして発信していくことが必要だと感じている。また、社会教育委員の方々にも建設的な意見や要望等を寄せていただきたい。

委員：コロナ禍で、例年のように公民館でのDVD教材視聴による、人権学習ができなかったことで、資料を各家庭に配布した。家庭内の中学生から高齢者まで資料を見ることができて、人権学習内容を共有できたことが良かった。今後は資料配布だけではなく、人権学習のDVD教材を中学生、高校生も家庭で視聴できるように、限定のYouTubeチャンネルを使い家族で学びを共有できるように、市として考えてもらえたらと思う。地元地域の人権学習会の実施方法を考える中で、公民館で戸主のみが集まりDVD教材を見て話し合う例年通りの方法の他にも、様々な開催の形があるのではないかと思った。

委員：青垣地域の学校運営協議会に参加している。青垣地域の小学校は4つの小学校が統合し、校区の範囲が広がった。できれば旧小学校区に、地域学校協働活動推進員等がいれば、より充実した学校への支援ができるのではないかと考える。今後、少子化で学校が統合していく中で、長期的に見れば各自治振興会ごとに地域から学校をサポートする役割の方が配置できれば、継続的な学校支援ができると思うので市でも検討いただきたい。

人権啓発センター所長：昨年度、各地域の推進委員から様々な相談を受けた。例えば、ご意見にもあったように「DVD教材をZoomで配信したいので許可してもらえないか」との問合せもあった。版元と調整して住民学習であればオンライン配信をしても良いという許諾も取れた。こういった情報も発信したり、より充実した人権学習の実施方法などの相談にも応じていく。

学校教育課長：山南地域で中学校の統合を控えているが、地域の歴史や伝統など引き継いでいくべき事が多くあると思う。市としては学校運営

協議会についても各小学校区の地域から学校をサポートする役割の方が配置されることが望ましいと考えている。また青垣小学校の継続的な学校支援についても学校長と相談をしてその方法等を考えていきたい。

(2) 社会教育委員の令和3年度活動報告・令和4年度活動計画について

- ・社会教育・文化財課から報告
- ・特に意見等なし

荒木議長：丹波地区社会教育委員協議会は、今年度丹波市が事務局を担当するので研修内容及び日程決定次第、連絡する。

7 協議事項

(1) 令和4年度社会教育関係団体補助金について

- ・2団体とも提案どおり承認

(2) 丹波市の社会教育と会議の進め方について

※荒木議長より、これまでの流れと今後の進め方についての説明。

○令和2～3年度 丹波市社会教育委員の会議

「2年間の会議内容と会議のあり方検討についての流れ」

委員：「社会教育委員とは何なのか？何をしていくのか？」ということでこの2年間研修をしてきた。丹波地区社会教育委員協議会の研修会の中で得た学びを受けて、令和2年度の第2回丹波市社会教育委員の会議で、

質問1：丹波市の社会教育に必要なものは何か。

質問2：丹波市の社会教育をより良くするために何をすればいいのか。

について意見を出していただいた。

教育委員会が社会教育委員に求めることとして、『地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもたちをはぐくむ「地域とともにある学校」の実現に向けご意見をいただきたい』との回答をいただいた。

その中で今後は社会教育に関する計画策定段階で、社会教育委員の意見や案を計画に反映させていきたいとの提言があった。

○令和4年度 丹波市社会教育委員会の会議の進め方について（案）

委員：「2年間の会議内容と会議のあり方検討についての流れ」を踏まえて、今年度の活動方針について、テーマを設定して研究調査を行う

ことと、令和5年度の社会教育計画立案への提言が効果的に反映されるよう意見具申を行うこととしたい。効果的な時期に会議を開くことも必要である。今年度の活動内容については、

①社会教育に関する諸計画の立案

②教育委員会への意見具申

③教育委員会から随時求められる案件への意見

(1) テーマ研究「地域学校協働活動における大人の学びについて」

(2) 丹波地区社会教育委員協議会研修への出席

として、案を挙げているのでご意見をいただきたい。

また、『活動計画一覧』に示したように第1回から第4回の会議で今年度のテーマについて研究・調査を行い、教育委員会への意見具申について反映できるような協議をする予定。

【質問・意見】

委員：「地域学校協働活動における大人の学びについて」の「大人」はどの範囲として考えるのか。

委員：学校教育以外が社会教育の範疇だと私は理解している。その中でも大人の学びとして、地域・学校で子どもの学びのためだけではなく、そこで「大人も、学べる」といったことをテーマにしたい。

委員：コミュニティ・スクールの関わりとして、地元の自然・文化について地域の方々がゲストティーチャーとして授業を行う場合がある。そのゲストティーチャーが保護者の場合もあるし、地域の人の場合もある。また、木工などの授業で先生のアシスタントとして各テーブルに付いていただくこともある。「参加できて自分も学ばせてもらって楽しい。また呼んでよ。」という声が聞かれる。そういう人たちをどう増やしていくか、また学校と関わっていただく中で新たな生きがいを感じていただく機会となればと考えている。

委員：学校の補助だけではなく、大人の学びの場所となっている。学校側も一方的なお願いにならないように進めるために苦心されているようだ。

委員：しめ縄作りを通して大路の「遊びの学校」で講師となった経験がある。説明をするためにかなり勉強した。説明したことは自分自身の学びとなり、子どもと共に参加された保護者にとっても学びとなったと思う。

委員：地域と学校の協働活動を具体的に進める方法として、社会教育委員でもあり、学校運営協議会委員でもある方々に意見を伺い課題（地

域や学校、子どもとの関係性など)を出していただいて、その課題について、少人数に分かれて考えていけたらと思っている。

教育長：大河ドラマの影響で、青垣地域「全国の足立家集まれ！」というイベントが立ち上がりつつあるが、子どもたちが地域の自治協議会活動に参加できるような試みを考えてもらえたらありがたいと思う。

委員：私たち自身が地元地域と関わりを持っていてる部分と、そうでない部分があると感じる。今年度は「地域と学校」と「大人の学び」について着目しているので、社会教育委員の自分たちがまず、地域や学校に出かけたり、行事等に顔を出したりして、もっと動くことが大事だと思う。正しいとか正しくないとかではなく、自分で見て、考えることが大事だと思う。「社会教育委員」として地域や学校に入っていけるように段取りをしていただきたい。地域や学校の「扉」が開くと私たちはとても動きやすい。

委員：「地域から考える学びの未来会議」や「コミュニティ・スクールを学ぶ団体」などあくまで任意ですが、ぜひ参加いただけたらと思う。こういった学ぶ場への案内や、実際、学校や地域に入っていけるセッティングの方法も考えたい。

委員：自分たちが昨年度まで、思ってきたり意見を出してきたことがつながっていることを、前年度までの流れの説明で示していただき、大変ありがたかった。地域の自治振興会や自治会の方たちも地域を良くするためにいろんな事を考えておられる。私は、オープンスクールや音楽会の行事の時に学校に行き、子どもの様子や学校の先生の雰囲気など学ばせてもらっている。学校のクラブ活動の中で、地域のゲストティーチャーとして活躍されている方もいる。今後も地域の方々が学校に行く機会があると嬉しい。

委員：各委員の地元を中心にコミュニティ・スクールの活動日の案内を教育委員会の方で調べていただき、知らせていただくことは可能か。地域の社会教育委員さんが実際に、地元の学校でコミュニティ・スクールの場面を直接見ていただくことで、活動内容のイメージ共有がし易いのではないかな。

委員：大変現実的なご提案をいただいた。また、教育委員会からコミュニティ・スクールの日程や内容を社会教育委員に知らせていただけたらありがたい。今年度も皆様からの忌憚りの無いご意見を頂けたらと思う。

8 その他

(1) 各課からの連絡事項

- ・社会教育・文化財課長：植野記念美術館、水分れフィールドミュージアムのイベント案内
- ・文化・スポーツ課長：ライフピアいちじまでの「丹波寄席」案内

(2) その他

- ・特になし

9 閉会（副議長）